

平成26年3月の「大阪森林便り」

梁用木材 8か月ぶり上昇 — 北米産丸太値上がり反映



住宅の梁に使う木材の価格が約8か月ぶりに上昇しました。1か月前と比べ4%高くなっています。

(2014年2月5日 日本経済新聞記事から抜粋)

「木を伐ることは悪いこと？」 — 出前授業



京都木材協同組合が「小学生への環境学習事業」を実施しました。

「木を伐ることは環境に悪いことですか？良いことですか？」の質問では、木に関するDVD鑑賞前はほぼ全員が「悪いこと」に手を挙げ、DVD鑑賞後は一変しました。

世間ではやはり「木を伐ることは環境に悪い」が常識になっています。

「木材は環境に貢献する」という正しい常識を定着させる必要があります。

(2014年2月5日 東洋木材新聞記事から抜粋)

北米産丸太値上がり — 対日2月積み、4か月連続



北米産丸太の対日価格が4か月連続で上昇しました。

2月積みは前月と比べ2%高くなっています。1年前と比べると15%値上がりしました。

(2014年2月8日 日本経済新聞記事から抜粋)

「スギは悪者」もう言わせない



花粉症の季節がやってきました。この「国民病」の原因として、いつの間にか悪者扱いされてきた杉の木。実は昔から日本人と深いかかわりを持ち、大切に植林、管理されてきた日本固有の植物であることは、意外と知られていません。

学名は「日本の隠れた宝」 国土の12%を覆う



スギ。学名クリプトメリア・ジャポニカは「隠された日本の財産」を意味します。1種1属の常緑の針葉樹で、日本にのみ生育する固有種です。環境に適応する力が高く、病害に強い上に成長スピードも速く、二酸化炭素の吸収量も大きいという優れた特徴を持ちます。

現在では日本の国土の約12%、約448万ヘクタールを杉の人工林が占めています。しかし、9割あった木材の自給率は7割以上を輸入に頼るまでとなっています。

無花粉の品種へ植え替え なくせ国民病



元来、無害であるスギ花粉がアレルギー症状を引き起こすのは、花粉に含まれる「アレルゲン」というたんぱく質に原因があります。アレルゲンが一定量を超えて鼻などの粘膜に浸透すると、ウイルスなどから身を守るために体内に備わっている免疫細胞が、外敵と勘違いしてくしゃみや涙で体外に押し出そうとするのです。

平成に入り患者数は急増し、今では国民の4分の1、約2500万人です。

富山県は補助金を出して無花粉スギの普及に努めています。

東京都は花粉量の少ない品種への植え替えを進めています。

茨城県日立市の森林総合研究所では、遺伝子組み換え技術を使い、日本各地の地域特性に合わせた無花粉スギの生産を目指しています。

計画的な伐採や他の樹木への植え替えが進めば、2050年ごろから花粉の飛散量はなだらかな下降線を描くとみられています。

ビル支える強度 輸出も探る



集成材大手の銘建工業は、スギ板材を繊維の方向に垂直に重ねあわせる「クロス・ラミネーテッド・チェンバー（CLT）」という新たな集成材の生産を開始しました。

木材では難しかった10階建て前後の高層建築の構造材としての使用も考えています。

アジア市場へ向け、宮崎県は積極的に輸出を行っており、昨年10月の出荷量は前年同月比で倍増しました。

(2014年2月17日 日本経済新聞記事から抜粋)